JAC創立１００周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	首都圏－2	(2)記載者氏名:	近藤善則	会員番号:	12489	事務局整理記入欄		科学委－02
分水嶺区分	E348田代山峠～三本尾根～E349田代山			(3)山行日:	2004年	10月	17日	(4)天候 快晴

(5) 参加者氏名および会員番号

近藤善則	12489		
	計	1名	

サポート要員氏名および会員番号

	計	名	

(6) 山行記録・位置確認 (出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して) ・所要時間・道の状況

ｺｰｽ概略:	田代山林道峠まで車～三本尾根分岐～P1677～P1810～田代山～小田代～登山口～林道峠												
ｱﾌﾟﾛｰﾁ:													
地点ｺｰﾄﾞ	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	田代山峠	湯西川	139	30	36.7	36	58	28.9	1,581		9:15		(9)
分水嶺到達点E348	田代山峠	湯西川	139	30	36.7	36	58	28.9	1,581		9:15	－	(1)
E3485	三本尾根分岐	湯西川	139	30	14.1	36	58	9.9	1,755	11:50	11:56	B-2	(2)(3)(8)
	P1677付近	湯西川	139	29	19.0	36	25	6.4	1,679		13:00	B-2	
	曲がり尾根	帝釈山	139	29	48.1	36	28	6.1	1,713		14:24	B-3	(4)
	P1810付近	帝釈山	139	29	11.1	36	58	26.1	1,798		15:14	B-3	
E349	田代山	帝釈山	139	29	4.4	36	58	35.8	1,928	17:00	17:05	B-3	
	西方向300m	帝釈山	139	28	52.9	36	58	28.8	1,953	17:30	17:35	B-1	(5)
分水嶺離別点E349	田代山	帝釈山	139	29	4.4	36	58	35.8	1,928		18:00	B-1	
歩行終了点	田代山登山口-峠	帝釈山	139	30	0.4	36	58	24.8	1,453	19.17		A-1	
										総歩行時間 (休憩時間を除く):			8時間30分

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点ｺｰﾄﾞを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
E349	田代山	3			田代山三角点は湿原(弘法沼)の北東300mにあるが、日没の為確認できず

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

1) 林道は峠で通行止、栃木側に車では通行できない。猿倉登山口に車通行止の看板があるが、脇から入る。峠までは比較的走行しやすい。
3)地図上ではここから田代山まで道が記載されているが、笹薮で覆われ判りづらい。道をはずすと藪がひどく時間を要す。
5)田代山山頂付近の急傾斜は難航するが、突然はっきりした道に出るとその道は東西につながっている。
湿原南側の樹林帯の縁(南斜面)につくられた登山道のようだが、西方向(帝釈山)側は途中で不明、東側は湿原に至り途中から木道が敷かれている

(9) 水および植生に関連した特記事項

7) 水場らしきもの田代湿原までは全くなし。
北側のオクラ沢-新道沢 (伊南川-只見川) と、南側のサル沢-馬坂沢(川俣湖-鬼怒川) の景観はよく判る。
8)三本尾根分岐は山頂のようだが、名称はない。立木にいくつかのプレートが打ち付けてあるが判読不明。オオシラビソが目に付く。

(10) その他の特記事項

2)三本尾根分岐までは踏み跡程度、尾根が細く南東側はガレており、縁に踏み跡がある。途中ヤブ(笹)の激しいところがある。
4)西から北西に曲がるあたりから道が全くわからない。所々視界が開け、田代山が確認できるので迷うことはないが、藪が激しい。
6)公募隊 (科学委員会－1の山行報告書参照) との出会いを期待したが、時間のズレが大きく叶わなかった。ヤブ漕ぎの時間査定の難しさを感じる。
9) 田代山林道の栃木側は地図上では尾根伝いに作られているようだが、通行止めで確認できず

(11) 写真の添付: (有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:

山行報告書（続き）

表面（1ページ目）に書ききれなかった事項を記入してください。

(9)田代山峠について：会津と関東（上野、下野）を分ける野岩国境のこのあたりは帝釈山脈とも称され、主峰は帝釈山である。この山脈を越える峠道は古くから幾つか利用されていたが、この峠を越える道路は最近作られたようだ。地元では「スーパー林道」「田代山林道」と呼ばれ、最高部(県境)を田代山峠という。